



思慮しな
い

川崎ゆきお

「暑いと頭が回りませんなあ。首は回りますがね、頭の中が回らない。脳が回転しないのでしょ
うなあ。まあ、本当に回転しているのなら立ってられないでしょうがね」

「僕なんかも暑いときは思考停止になりやすいので、大事なことは冷房のよく効いたところか、
涼しい場所で考えるようにしています」

「北国の人ほど思慮深いのかもかもしれませんねえ。暑くて日陰で寝ているような連中より、考えも
深くなるのかもかもしれませんなあ。まあ、南国の人の方が逆に自然なものでしょ。色々と考えに耽る
方が危険で、これは不自然なのかもしれません。目先のことだけで十分。しかも分かりやすいこ
とをね」

「暑いと短絡的になります。気合いで一気に行ってしまいたいような」

「それで、考えが足りなかったとか、配慮に欠けていたとかと、クレームを頂戴することが多い
ですねえ。考えるのが面倒臭くなるんでしょ。早く決着を付けたいとかね。早く答えを出して、
進みたいとかね。これは真夜中に思い付いたアイデアに似てますよ。朝、それを実行しようとす
ると、とんでもないアイデアで、とてもではないが、まともには出来ないようなね」

「短期中期長期の見通しを立て……」

「少しお待ちを、悪い本、読みませんでしたか」

「読みました」

「それがそもそもストレスの元で、また束縛の元。呪縛、戒めを自分自身でかけ、逆に身動きで
きなくなりますよ」

「しかし、プランを出さないと」

「じゃ、嘘を書いて、安心させてやればいいんだよ。短期も中期も長期も、どうなることか分か
らない。絵に描いた餅。絵空事。そんなもの何の役にも立たなかつたりしますぞ」

「そうですね。自分自身のことでも、思う通り行きませんから」

「そうでしょ」

「でも思考停止では」

「いやいや、停止なんてしていませんよ。そんな人はいません。しっかり見えていますよ」

「え、でも、考えが足りなくて、とんでもない計画を出した人もいますよ」

「それは最初から確信犯ですよ。嘘だと思いながら書いて、提出したのでしょ」

「しかし、ビジョンは必要でしょ」

「それは看板で、実際に実のなるのは別のところにあったりします」

「どちらにしても、暑いときは、あまり考えないようにします」

「意外と頭がぼんやりとしているときに思い付いたことを、そのまま検討もしないで、やり始めたことが、長く続くこともありますよ」

「逆なんじゃないのですか」

「まともに考えたプランじゃ、曖昧になります。色々と配慮していけば、平凡なものになる。それよりも、ある箇所を突破するような狂気が必要でしょうなあ。これは怖いので、やりませんがね。多くの人に迷惑をかけたか、敵に回しますから。疲れます。出る杭は叩かれ、今まで甘い汁を吸っていた人達が抵抗するでしょ」

「そんな大袈裟な話じゃなく、個人的なプランなんですが」

「同じモードですよ。似たようなパターンになっておると見ていい。当然自分の中でもね。それが、暑くてぼんやりとしているとき、白昼夢のように思い付いたことを、自分自身でもブレーキをかけないで、すり抜け、実行に移してしまえるチャンスでもあるのです」

「それこそ、冷静な判断がないわけで……」

「冷静に考えれば、実行など出来ませんよ。だから頭が麻痺しているこの暑い時期がチャンスなのです」

「怖いです」

「夏場だけに、怪談に近いですからなあ」

「それはどういう利点があるのですか」

「おそらく素が出た。本質が出た。そういう行為に近いのです。ずっと封印していたことなどが、吹き出す季節なのでね。汗のように」

「僕は怖いので、やりません」

「それが無難でしょ。怖いと思うのが、あなたにとって自然な判断なのでね」

「はい」

